

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

< 46週 > マイコプラズマ肺炎 - 定点当たり報告数は3週連続で増加している / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4

< 感染性胃腸炎 > 第45週、46週と急増しており、第46週の全国平均の定点当たり報告数は5.92となっている
< 腸管出血性大腸菌感染症 > 発生状況グラフ



病原体情報
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 - 感染性胃腸炎 / インフルエンザ / Vero毒素産生性大腸菌



速報
P.6

保育所で発生したノーウォーク様ウイルスによる集団胃腸炎事例 - 大阪市 / 生物テロ関連情報



海外感染症情報
P.7

考古学発掘現場の作業者におけるコクシジオイデス症 - 米国 / 米国の炭疽 - 更新



感染症の話
P.8-11

乳児ボツリヌス症
ボツリヌス菌芽胞を生後1年未満の乳児が経口的に摂取した結果、腸管内で菌が芽芽・増殖して産生した毒素により発症する



読者のコーナー
P.12

ノーウォーク様ウイルス(NLV)の感染源と感染経路



グラフ総覧(46週)
P.13-19



46週のデータ
P.20-27



発生動向総覧

第46週コメント 11月26日集計分

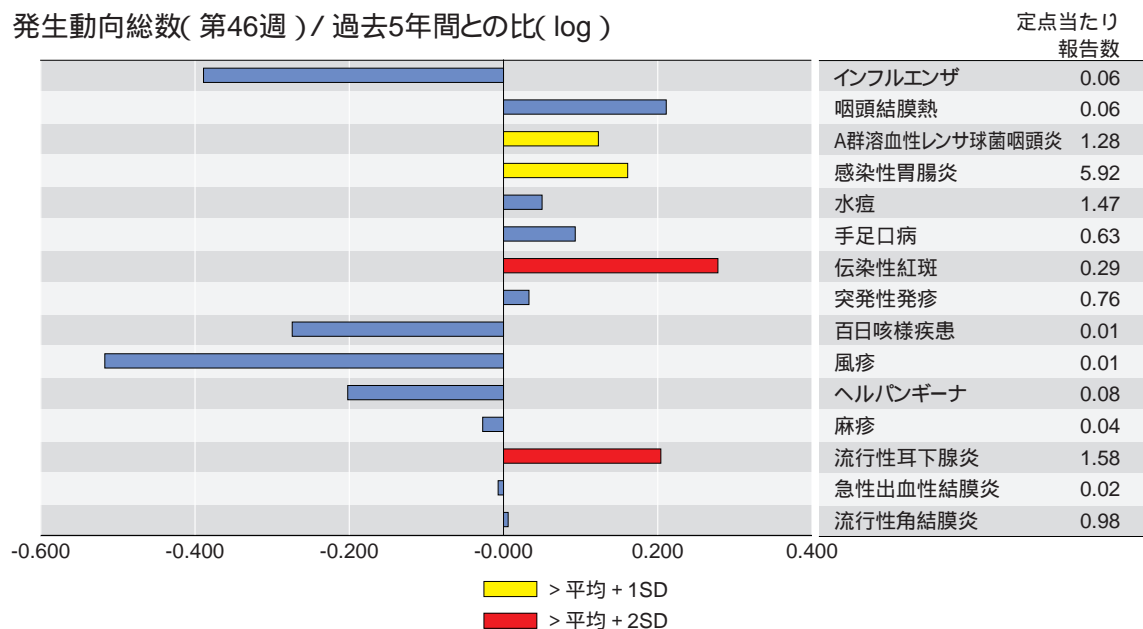
全数報告の感染症

- 1類感染症: 報告なし
 - 2類感染症: 細菌性赤痢6例(推定感染地: 国内1例、インドネシア2例、中国、インド、タイ各1例)
腸チフス1例(推定感染地: ネパール)
 - 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症27例(有症者19例のうちHUS1例が報告されている。腸管出血性大腸菌感染症の発生数の推移については、4ページ「注目すべき感染症」を参照)
 - 4類感染症: アメーバ赤痢5例、Q熱1例、クロイツフェルト・ヤコブ病4例(すべて孤発性)
劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、ツツガムシ病13例(うち、広島県と大分県から4例ずつの報告) 日本紅斑熱1例
急性ウイルス性肝炎7例 B型7例_感染経路: 性的接触4例、不明3例
後天性免疫不全症候群8例(AIDS 2例、無症候性キャリア6例)
感染経路: 性的接触6例(同性間3例、異性間3例)
不明1例、その他1例
梅毒3例(早期顕症2例、無症候1例)
- * 第44、45週に愛知県から報告されていたバンコマイシン耐性腸球菌感染症(同一施設内4例)は、調査の結果、全例がサーベイランスの診断基準を満たしていない症例であり、報告が取り下げられた。

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘は、年末のピークに向け患者報告数の増加が見られている。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、例年の同時期よりやや多くなっている。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は、山形県で6.7と多くなっている。感染性胃腸炎の定点当たり報告数が多くなっているのは、熊本県(13.9)、山口県(12.3)、福岡県(11.3)、鳥取県(10.3)などである(感染性胃腸炎の詳しい情報については、4ページ「注目すべき感染症」参照)。伝染性紅斑は非流行期であるが、過去5年間の同時期と比較すると定点当たり報告数がかかなり多くなっている。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、第19週よりここ10年間で最大の数が持続している。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数が多くなっているのは、石川県(6.2)、長野県(5.2)、沖縄県(5.0)、富山県(4.8)などである。流行性角結膜炎は宮崎県で定点当たり報告数5.3と多くなっている。

発生動向総数(第46週) / 過去5年間との比(log)

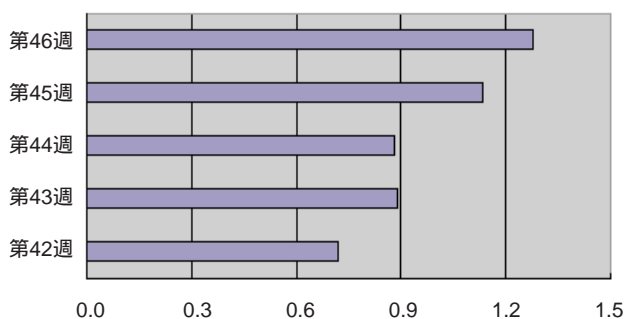


当該週と過去5年間の平均 (過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均) の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

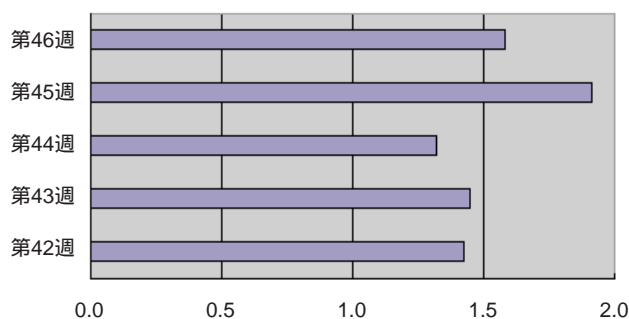
最近の注目疾患－5週間の動き

感染性胃腸炎、水痘の定点当たり報告数は7週連続で増加しており、今後年末のピークシーズンに向け患者数の増加が予想される。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎も定点当たり報告数が前週より増加し、ここ5週では全体として増加傾向にある。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は前週より減少した。基幹病院定点からの報告疾患であるマイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は3週連続で増加し、昨年、一昨年に比べると定点当たり報告数の多い状態が続いている。

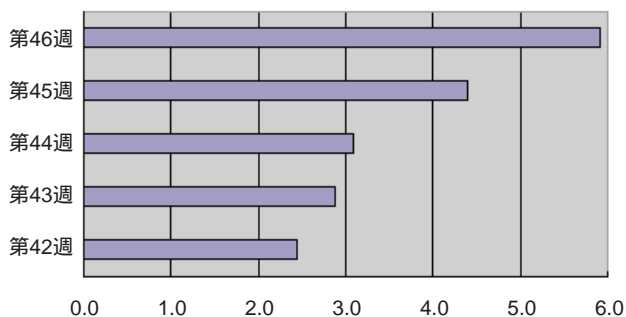
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



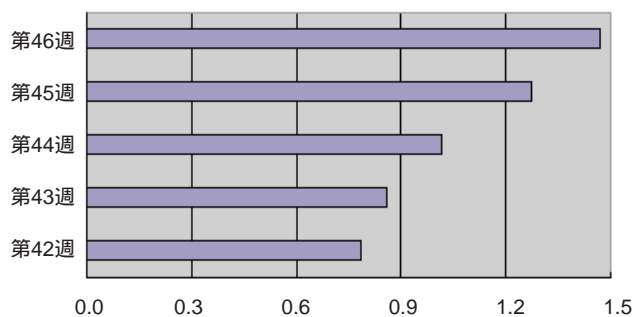
流行性耳下腺炎



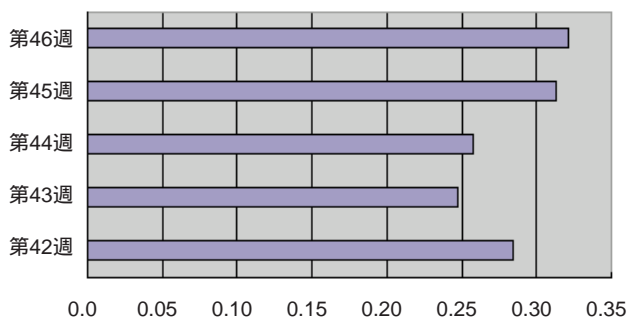
感染性胃腸炎



水痘



マイコプラズマ肺炎



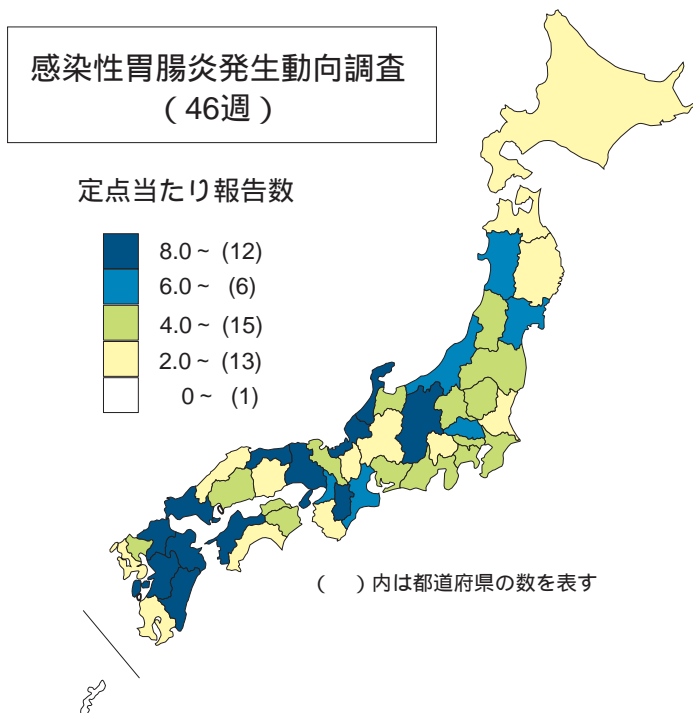
(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



注目すべき感染症

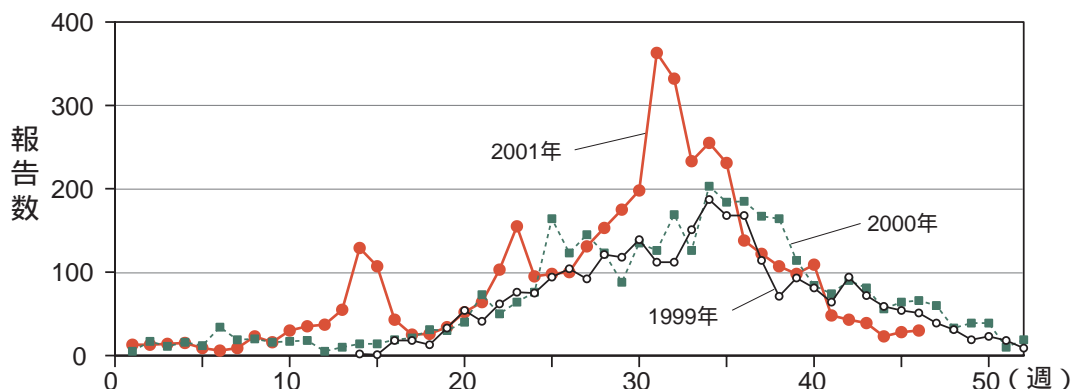
感染性胃腸炎流行状況

今シーズンの感染性胃腸炎は第39週より報告数が徐々に増加し始め、第45週、46週と急増している。第46週の全国定点からの報告総数は17,871、平均の定点当たり報告数は5.92となっている。過去の流行曲線と比較すると、立ち上がりの時期としては比較的早く、過去5年間の同時期と比較すると定点当たり報告数はやや多くなっている(14ページ感染性胃腸炎グラフ参照)。定点当たり報告数が多くなっている都道府県は、熊本県(13.9)、山口県(12.3)、福岡県(11.3)、鳥取県(10.3)、石川県(9.8)、宮崎県(9.7)、長野県(9.2)などである。病原体検出情報事務局には、すでにいくつかのSRSV検出の報告が寄せられている(ウイルスの検出情報については5ページ参照)。



腸管出血性大腸菌感染症流行状況

腸管出血性大腸菌感染症 (無症状保菌者含む) 発生状況





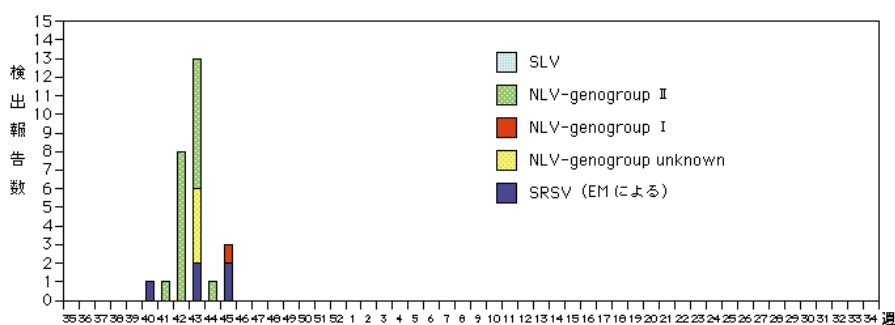
病原体情報

*グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。
(2001年11月22日現在報告分)

感染性胃腸炎 2001/02シーズン

今シーズンのSRSV検出として、第40週に愛媛県から1件、第41～44週に大阪市から17件(ノーウォーク様ウイルス: NLV genogroup II、うち5件が保育園での集団発生、本号6ページ「速報」参照)、第43週に秋田県から4件(NLV genogroup unknown)、北九州市から2件、第45週に石川県から1件(NLV genogroup I)、北九州市から2件報告されている。また、今シーズン初めてのA群ロタウイルスの検出として、第41週に東京都から1件の報告がされた。

検出されたSRSVの内訳、2001/02シーズン (病原微生物検出情報: 2001年11月22日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



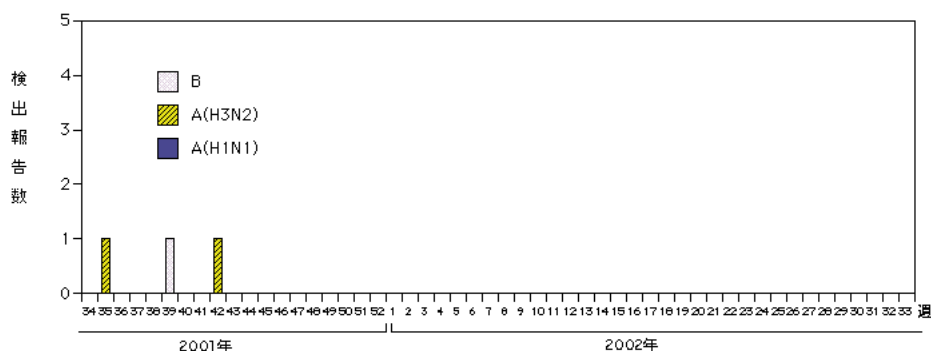
Infectious Agents Surveillance Report

インフルエンザ 2001/02シーズン

今シーズン初めての分離として、第35週(8月29日検体採取)に沖縄県からインフルエンザA/香港型ウイルス(H3)が1件報告され、第39週(9月26日検体採取)には名古屋市からB型が1件報告された。その後第42週(10月19日検体採取)には、再び沖縄県からA/香港型ウイルス(H3)が1件報告されている。

週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数、2001/2002シーズン

(病原微生物検出情報: 2001年11月22日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

ヒトから分離されたVero毒素産生性大腸菌O157およびO26検出報告 2001年

本年のVero毒素産生性大腸菌の検出総数は、O157が1,274件、O26が259件である。報告数は第30～32週をピークに減少しており、最近の検出としては、O157が第42週6件、第43週1件(島根県)、第44週1件(兵庫県)、O26が第43～44週にかけて福岡市から4件報告されている。



保育所で発生したノーウォーク様ウイルスによる集団胃腸炎事例 - 大阪市

2001年10月に大阪市内の保育所(園児81名、保育士13名、調理従事者2名)の園児において、嘔吐・下痢を主症状とする集団胃腸炎事例が発生し、患者便からノーウォーク様ウイルス(NLV)を検出したので報告する。

患者発生は、保育所の3歳～5歳児までの3クラス58名中18名(男14名、女4名、3歳児クラス2/15名、4歳児クラス11/22名、5歳児クラス5/21名)であり、10月19日15時30分～20日0時30分にかけて、嘔吐・下痢を主症状とする胃腸炎を発症していた。患者の症状は下痢13名(72%)、腹痛5名(28%)、嘔吐18名(100%)、発熱7名(39%、37～38.9)、悪寒1名(5.6%)であった。本事例の患者発生状況は19日夜をピークとした一峰性であったため、単一暴露が起こっていたものと考えられ、当初食中毒が疑われた。喫食調査では牛乳以外に共通食品がなく、10月19日に園児が飲用した牛乳からは、食中毒菌および黄色ブドウ球菌エンテロトキシンは検出されなかった。保育所調理場のふきとり検体、10月16日～19日の保存食、調理従事者便および患者便2検体についても食中毒菌の検索を実施したが、特定の食中毒菌は検出されなかった。

そこでRT-PCR法を用いてNLVの検査を行ったところ、患者便2検体からNLV遺伝子が検出された。調理従事者便からNLV遺伝子は検出されなかった。また、園児が受診したサーベイランス病原体定点の病院から集団発生疑いで6検体の患者糞便検体が搬入され、すべての検体からNLV遺伝子が検出された。検出されたNLVの遺伝子型はすべてgenogroup II(プローブ型はP2-B型)であった。保育所の情報では、数日前より、教室内で嘔吐した園児や風邪をひいている園児がいたということであった。上記サーベイランス病原体定点においては、10月上旬より感染性胃腸炎患者が急増しており、本事例以外で10月8日～24日の期間に胃腸炎症状を主訴とする患者糞便検体から、同じプローブ型のNLVが8/15名(53%)と高率に検出され、NLVによる胃腸炎の地域流行が示唆された。

以上のことから、本事例は食品を介した感染事例ではなく、NLVに感染した患者から吐物等を介して直接ヒトへ感染が広がった事例であると考えられた。本事例においては、二次感染防止のため保健所および当該地区保健センター合同で、ウイルス性胃腸炎に関する知識の普及と、本疾患が疑われる患者の吐物・糞便の適切な処理について指導を行った。その後、園内における感染は終息した。

NLVは感染力が強く、吐物等を介して直接ヒトに感染し、特に施設内で感染が拡大した事例の報告は少なくない。10月から冬季にかけてはNLVによる胃腸炎が流行する時期であり、特に地域的な流行が認められるような場合は、保育所や学校などの施設では嘔吐・下痢を呈する患者の発生に注意し、適切に対処する必要がある。

最後に、本事例に関して疫学等の情報収集に協力していただいた大阪市保健所、および関係保健センター各位に深謝する。

大阪市立環境科学研究所

入谷展弘 勢戸祥介 久保英幸 小笠原 準 春木孝祐

済生会泉尾病院小児科

大川 薫

生物テロ関連情報

WHOのガイドライン「生物化学兵器に対する公衆衛生的対策」

http://who.int/emc/pdfs/BIOWEAPONS_exec_sum2.pdf



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

考古学発掘現場の作業者におけるコクシジオイデス症 - 米国

MMWR 2001年11月16日

コクシジオイデス症は、米国南西部、カリフォルニア半島、中央および南アメリカの一部の乾燥した土壌に存在する *Coccidioides immitis* 胞子の吸入が原因で起こる真菌症である。*Coccidioides immitis* による感染は、流行地から帰った旅行者を別にすれば、これらの地域以外で診断されたことはない。この報告では、2001年6月～7月にユタ州北東部の考古学発掘現場の作業者に発生したコクシジオイデス症の集団感染を記述する。またこの報告は、ユタ州北部で初めてコクシジオイデス症患者が確認されたことを示している。医療関係者は、現在この地域に在住するか、最近この地域を旅行し、当てはまる病態を示す患者の鑑別診断にコクシジオイデス症を加えて考慮する必要がある。土壌の空中への拡散と土埃の吸引を最小限にするような対策を行えば、コクシジオイデス症の危険性を少なくすることができる。

ダイナソア(恐竜)国立モニュメントは、ユタ州北東部とコロラド州北西部の320平方マイルを占めており、2000年には397,800人が訪れた。2001年6月18日に国立公園局の考古学者の指導のもとで、6名の学生ボランティアと2名の指導者がダイナソア国立モニュメントの考古学発掘現場での作業を始めた。作業は石の階段を作ったり、支持壁を設置したり、化石についた土埃をより分けることなどであった。土埃のより分け作業が一番多かった6月19日に、土埃への曝露が最高であった。作業者は防護マスクを着用していなかった。6月29日から7月3日の間にその発掘現場で働いていた8人全員と2人の国立公園局の考古学者が、呼吸器症状や全身症状で病院の救急部において診療を受けた。10人全員が胸部レントゲン検査でびまん性肺浸潤像を示し、8人が原因不明の肺炎で入院した。調査の途中であるが、国立公園局は発掘現場を閉鎖し、TriCounty保健局は警報を出した。7月2日にTriCounty保健局、ユタ保健局およびCDCは危険因子、原因、流行の範囲を特定する調査を開始した。

発掘現場は9月28日に再開した。国立公園局のガイドラインでは、ダイナソア国立モニュメントへの訪問客に対して、土埃を巻き上げたり、現地の土を踏むことを避けるために、整備されたコースの上を歩くように勧めている。訪問客の *C. immitis* 感染リスクについては、土埃への吸入曝露がこの流行で感染した人よりかなり少ないので、非常に小さいものと思われる。しかし、さらに予防対策として、訪問客に対する感染危険性を最小にするような考慮がなされている。それは、風の状態により土埃の曝露が起こりそうな時は、訪問を止めるよう警告することなどである。サーベイランスは、地域の病院で進行中である。

米国の炭疽 - 更新

WHO/CSR 2001年11月23日

2001年11月21日までにWHO協力センターであるCDCは、23名の炭疽患者(18名が確定患者、5名が疑い患者)を報告した。23名の患者のうち、5名が肺炭疽で死亡した。



感染症の話

乳児ボツリヌス症

1976年、米国において最初の乳児ボツリヌス症の例が報告された。乳児ボツリヌス症は、食品に含まれる毒素による一般的なボツリヌス食中毒と異なり、ボツリヌス菌芽胞を生後1年未満の乳児が経口的に摂取した結果、腸管内で菌が発芽・増殖して産生した毒素により発症する。腸管内での菌の増殖が、便の検査によって確認される。生後2週目以前の乳児における感染報告例は少なく、母乳(初乳)に含まれる成分が菌の定着・増殖を抑制している可能性がある。

疫学・病原体

国内では、1986年の千葉県での初発例以来、ハチミツが主要な原因食品として注目されてきた。この初発例では、患者の便から分離されたものと同型の*Clostridium botulinum* A型菌が輸入ハチミツから検出され、原因食品と断定された。この症例を重くみた厚生省(当時)は翌年10月、「1歳未満の乳児にハチミツを与えないように」と各都道府県に通知した。以来、国内で報告された20例足らずの大半は、産生する毒素の性質でA型からG型までに区別されるボツリヌス菌のうちA型菌によるものであるが、B型、C型菌によるものも報告されている(表1)。感染源としては、国内患者の半数がハチミツを摂取した後に発症しているが、最近ではそれ以外の原因食品が疑われる報告例も見られ、野菜ジュース、コーンシロップ等も感染源となりうる。1990年北海道でのC型、1996年東京でのA型菌毒素の報告例では、野菜スープが原因食とされている。

ボツリヌス菌は元来土壌細菌であり、国内の土壌中から比較的容易に見いだすことができるが、国内の乳児ボツリヌス症の原因となったA型、B型菌は国内の土壌中には稀であるため、国内での汚染よりはむしろ海外で汚染された輸入食品が原因になった可能性が考えられる。

乳児ボツリヌス症では、ボツリヌス食中毒と同様に中枢神経系が冒される。弛緩性の麻痺、呼吸麻痺を主症状とするが、致命率はボツリヌス食中毒とは異なり1~3%と低い。乳児の突然死症候群(sudden infant death syndrome)の1原因という説もあり、突然死症候群の数%は本症による

表1. 国内の乳児ボツリヌス症発生状況

	場所	発症年月日	年齢(日)	性別	型	便中		血清中の毒素	ハチミツ	
						毒素	菌		摂取歴	菌分離
1	千葉	1986年 5月	83	男	A	+	+	-	+	+
2	京都	1987年 7月	40	女	A	+	+	+	+	-
3	大阪	1987年 7月	49	女	?	-	-	-	+	-
4	石川	1987年 7月	62	女	A	+	+	+	+	+
5	大阪	1987年 8月	38	男	A	-	-	-	+	+
6	京都	1987年 8月	93	男	?	?	?	?	+	-
7	愛媛	1987年 9月	146	男	?	?	?	?	+	?
8	愛媛	1987年10月	135	男	A	+	+	-	+	+
9	神奈川	1987年10月	132	男	A	-	+	-	+	-
10	岐阜	1987年10月	99	男	A	+	+	-	+	+
11	神奈川	1989年 2月	122	男	A	+	+	+	+	+
12	岡山	1989年10月	54	男	A	+	+	-	+	+
13	北海道	1990年 2月	171	女	C	+	+	-	?	?
14	大阪	1992年 9月	66	女	A	+	-	-	-	ND
15	石川	1995年 3月	183	女	B	+	+	-	-	ND
16	東京	1996年 4月	91	女	A	+	+	-	-	ND
17	広島	1999年 3月	212	男	A	+	+	-	-	ND

? : 不明 ND : 検査せず

という海外での報告もある。国内でも北海道の例は突然死型と報告されている。また、ボツリヌス菌以外の近縁菌も乳児ボツリヌス症を起こすことがあり、ボツリヌスF型毒素を産生する*Clostridium baratii* による1979年の例と、ボツリヌスE型毒素を産生する*Clostridium butyricum* による1984年の例が報告されている。

ボツリヌス菌は、その生理的な性質からI群とII群に、また上述のように産生する毒素の型によりA型からG型までに分けられる。毒素は、強い毒性を持つ神経毒素と、それを胃などの消化酵素から保護する無毒成分の複合体として菌から放出され、腸管から吸収された後に、神経毒素が無毒成分から解離して毒性を示すと考えられている。また、一部の型の毒素ではこれに加え、蛋白分解酵素による活性化が毒性の発現に必要である。

臨床症状

出生後順調に発育していた乳児が便秘傾向を示す。大半の患者は便秘状態が数日続き、全身の筋力が低下する脱力状態(floppy)になり、ほ乳力が低下し泣き声が小さくなる。特に、顔面は無表情となり、頸部筋肉の弛緩により頭部を支えられなくなる(図1)。眼瞼下垂、瞳孔散大、対光反射が緩慢になるなど、ボツリヌス食中毒と同様な症状が認められる。また、頑固な便秘のために、便から長期間(1~2カ月)菌が排泄される例も珍しくない(図2)。



図1. 乳児ボツリヌス症での筋肉の弛緩

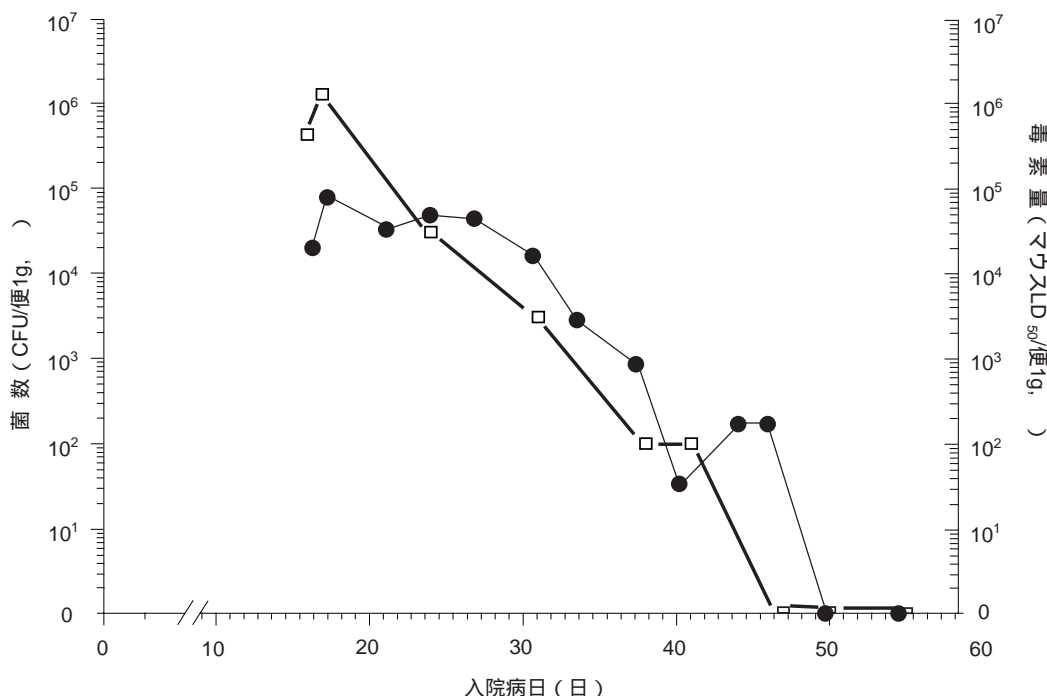


図2. 乳児ボツリヌス症患者での便中のA型菌と毒素の推移

病原診断

診断には、臨床的な筋電図による診断と、検査室での毒素または菌の検出による診断がある。

(1)毒素の検出(血清、便抽出液、食品)

患者の血清や便からボツリヌス毒素を検出することで診断が可能である。また、食品からの検出により、原因食品の推定も可能である。毒素の検出には動物試験が確実で、毒素に対する感受性も他の試験法に比べて高い。

動物試験では、マウスに検体を注射し、毒素特有の麻痺が起こるかどうかをみる。検体(血清、便抽出液、あるいは食品)に蛋白分解酵素トリプシンを添加して毒素の活性化を行った後、マウス腹腔内に注射する。検体にボツリヌス毒素が含まれていれば、毒素による運動筋の麻痺により、歩行障害、眼球の異常運動、腹部の陥凹が見られ、検体に含まれる毒素の活性が高ければ、マウスは数時間から3日前後で死亡する。また、その症状がボツリヌス毒素によることをさらに確認し、毒素の型を決定するため、各型のボツリヌス毒素に対する抗毒素を用いた中和試験を行う。たとえば、陽性の検体に抗A型抗毒素を添加してからマウスに注射しても症状が起きず(中和されたという)他の型に対する抗毒素でそのような中和がみられなければ、その検体にはA型毒素が含まれていたことになる。

(2)菌の検出(便)

菌(毒素も)を検出するための検体としては便が最も適しているが、患者は便秘をしていて便の採取が困難なことが多い。便秘を改善するために浣腸が行われることがあるが、その場合には、腸粘膜を傷つけて毒素の吸収を増大させることのないよう注意が必要である。便が得られれば菌の分離と毒素の検出に用いられるが、便が得られない場合でも、回収された洗浄液が使用できる。また、肛門をぬぐった綿棒等からも菌が分離できることがある。

一般的に菌および毒素の検出・確認は、治療のための抗菌薬投与が行われる前に採取した検体の方が、治療中の検体より容易である。菌の検出は、平板培地(GAM寒天、または血液寒天)に検体を直接塗布して行うか、または試料に強化クックドミート培地または肝片加肝臓ブイヨン培地を加えて増菌培養を行った後、あらためて分離を行う。

治療・予防

ボツリヌス食中毒は毒素そのものを摂取して発症するが、乳児ボツリヌス症の場合は生体内で増殖した菌が毒素を産生して病気を引き起こす。そのためまれには、治療として抗菌薬投与による除菌が行われる場合がある。また、ボツリヌス食中毒で行われる抗毒素療法は、患者が乳児であること、致死率が高くないことなどの理由から、一般には行われない。

患者は頑固な便秘を呈するため、発症後長期間にわたり菌および毒素が便より検出され続ける。そのため、入院中の患児の看護・管理においては、医療従事者が二次感染の伝播者となることのないよう十分な注意が必要である。

離乳前の乳児は、離乳後に比べると腸管内の微生物叢がまだ不安定で、ボツリヌス菌の感染に対する抵抗力が低いと考えられている。そのため、乳児ボツリヌス症の予防には、芽胞による汚染の可能性がある食品(ハチミツ、コーンシロップ、野菜ジュースなど)を避けることが唯一の方法である。

感染症法での取り扱い

乳児ボツリヌス症は4類感染症全数把握疾患であり、診断した医師は7日以内に最寄りの保健所に届け出る。報告のための基準は以下の通りである。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断がなされたもの

- ・病原体及び毒素の検出

例：吐物や腸管内容物等からのボツリヌス菌の分離と同定と、分離した菌からのボツリヌス毒素の検出など

- ・病原体の遺伝子の検出

例：患者の糞便からの毒素遺伝子のPCR法による検出など

(国立感染症研究所細菌・血液製剤部 高橋元秀 岩城正昭)



読者のコーナー

Q: 感染性胃腸炎のなかでノーウォーク様ウイルス(NLV)の感染源は、主にカキと理解をしているのですが、2001年第43週病原体情報(5ページ)に、保育園での集団発生からNLVが5件検出されたと書かれています。子どもが給食で生カキを食べるとは考えにくいので、どういう原因で発生したのか教えてください。(広島県保健婦Mさん)

ノーウォーク様ウイルス(NLV)の感染源と感染経路

本事例については、本号6ページに速報記事として掲載されています。

一般的にノーウォーク様ウイルス(NLV)の感染経路としては、人の糞便中に排泄されたウイルスがカキやその他の海産物、あるいは水道や井戸、河川湖沼、プールなどの水を介して感染する場合、調理者の手指から食品を介して感染する場合などが重要とされきましたが、他にも、手洗いをよく行わない幼児等が他の幼児等に感染させる場合、吐物から感染する場合、さらには、吐物や糞便に汚染された衣類や寝具などの処理の過程で感染する場合、などが知られています。

国内における集団発生の事例報告では、生カキが関係する事例は全体の半数以下で、大規模事例ではカキが原因とされる例は少なく、給食・仕出し弁当や宴会料理が原因食品に挙げられる一方、原因不明の事例も多くなっています。NLVを培養細胞で増やすことができないことも、原因不明となる一因です。保育園など施設内の集団発生事例で発生期間が長い場合には、人 - 人感染が重要であると考えられます。

関連記事としては、当感染症情報センターのホームページで[IASR] [特集索引] [食中毒・ウイルス性胃腸炎] あるいは[IDWR] [感染症の話] などから御覧になれます。

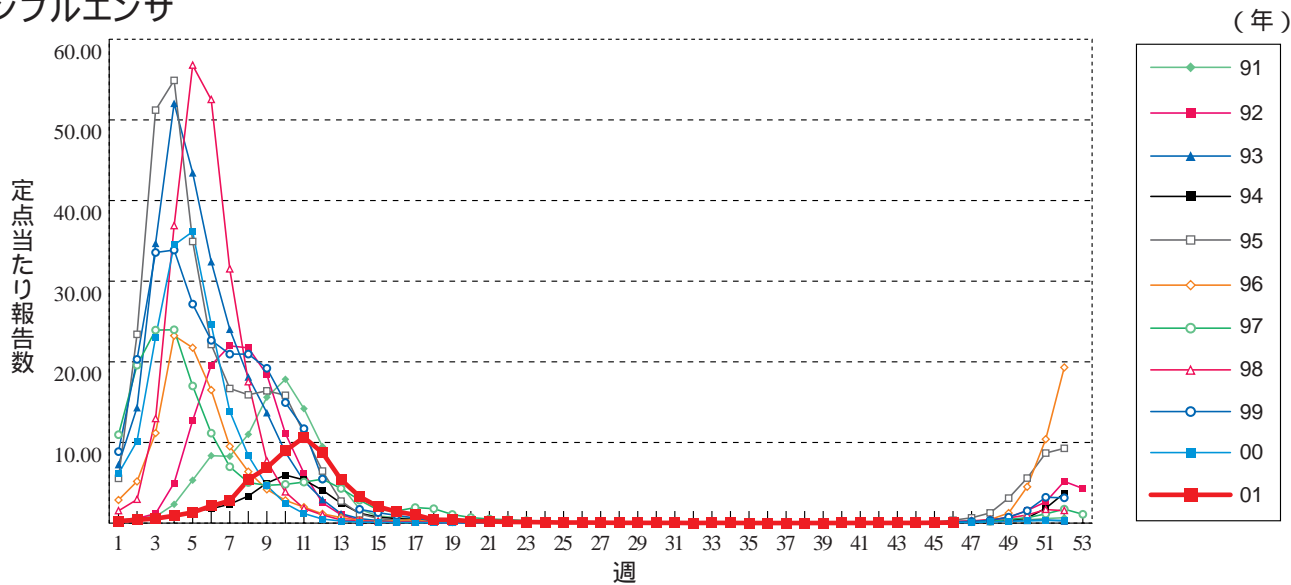
(国立感染症研究所感染症情報センター)

「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

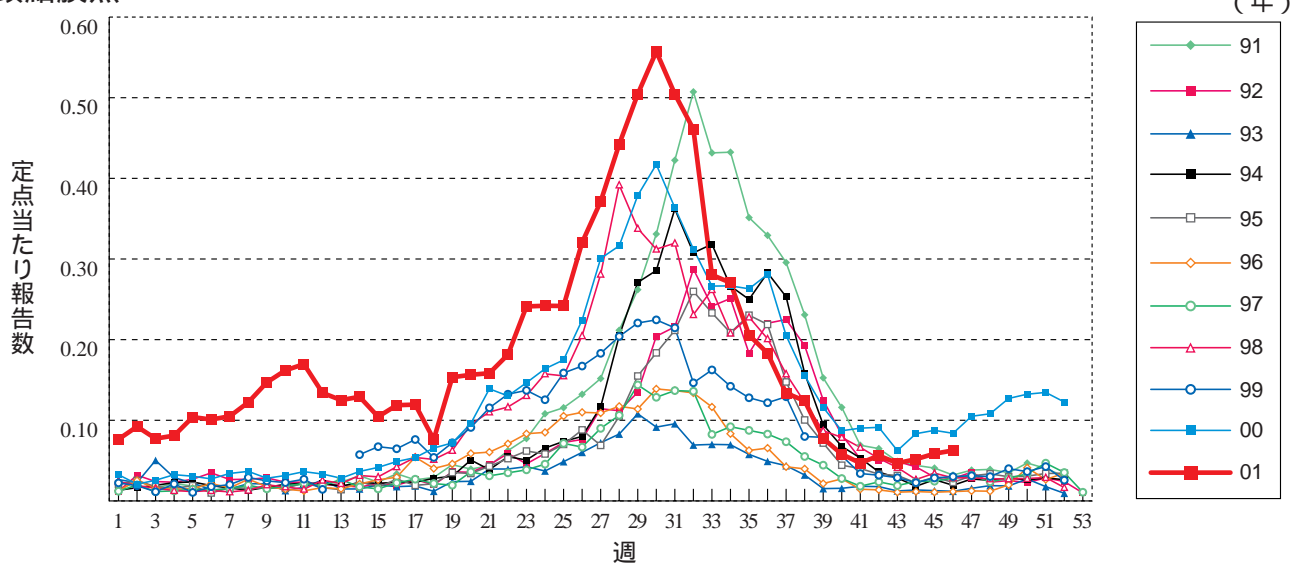
idsc-query@nih.go.jp

グラフ総覧(46週)

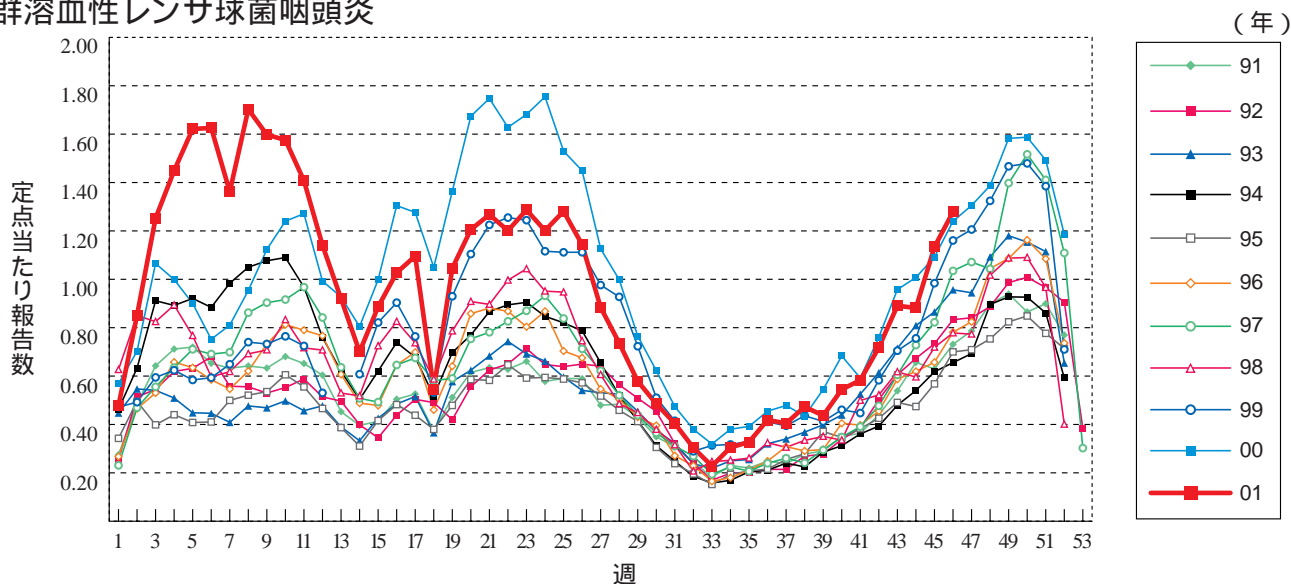
インフルエンザ



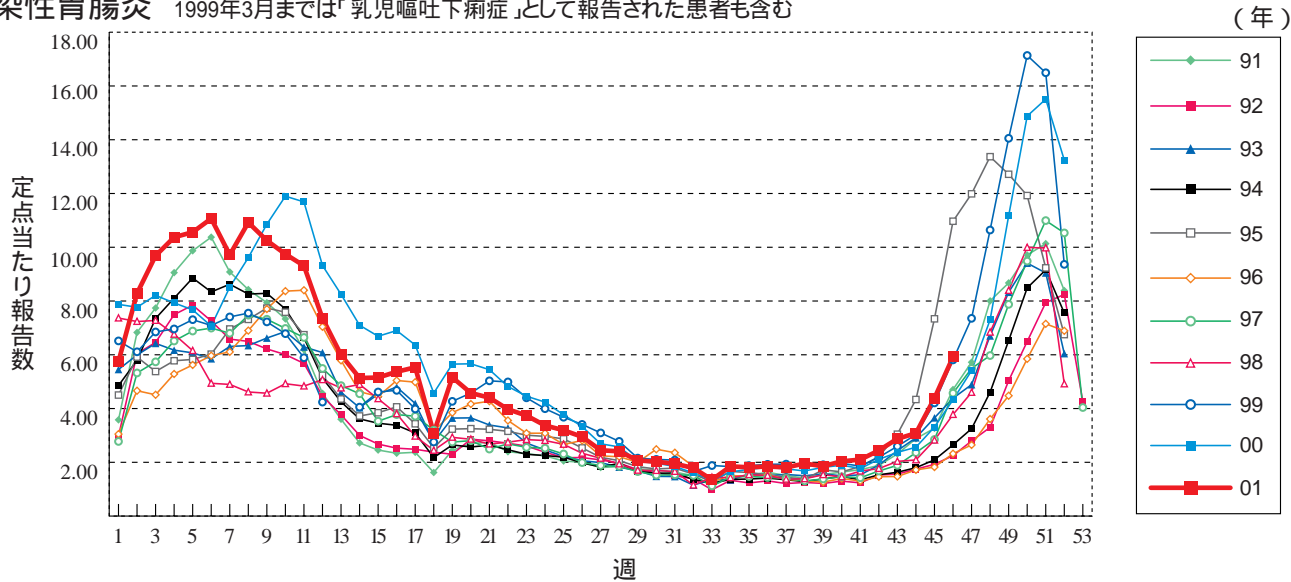
咽頭結膜熱



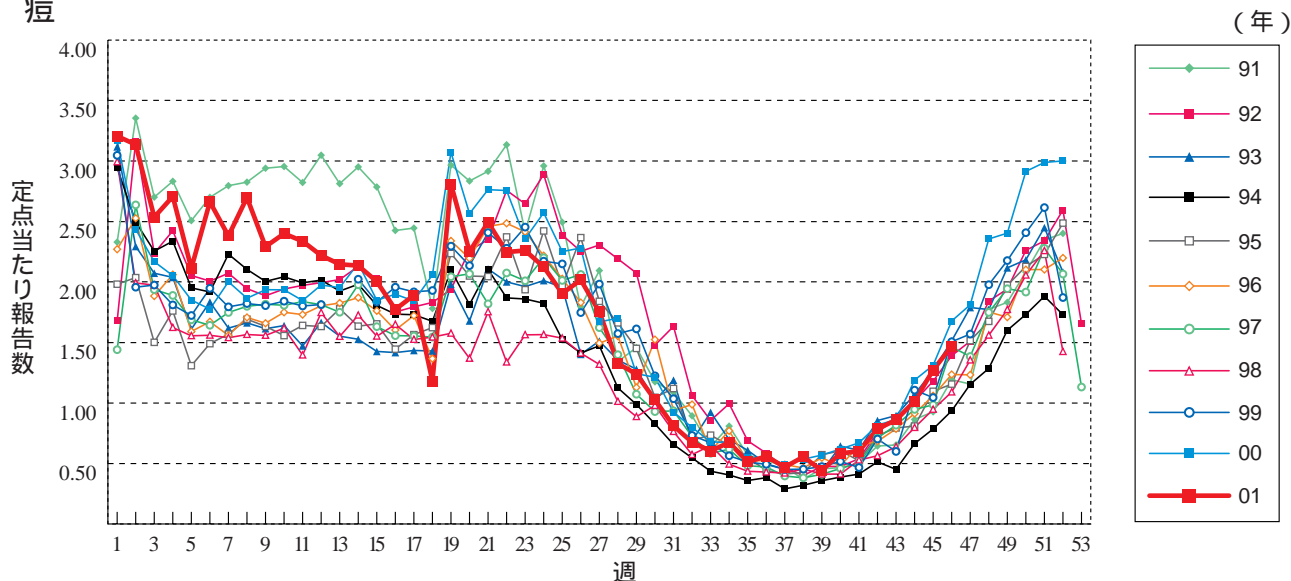
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



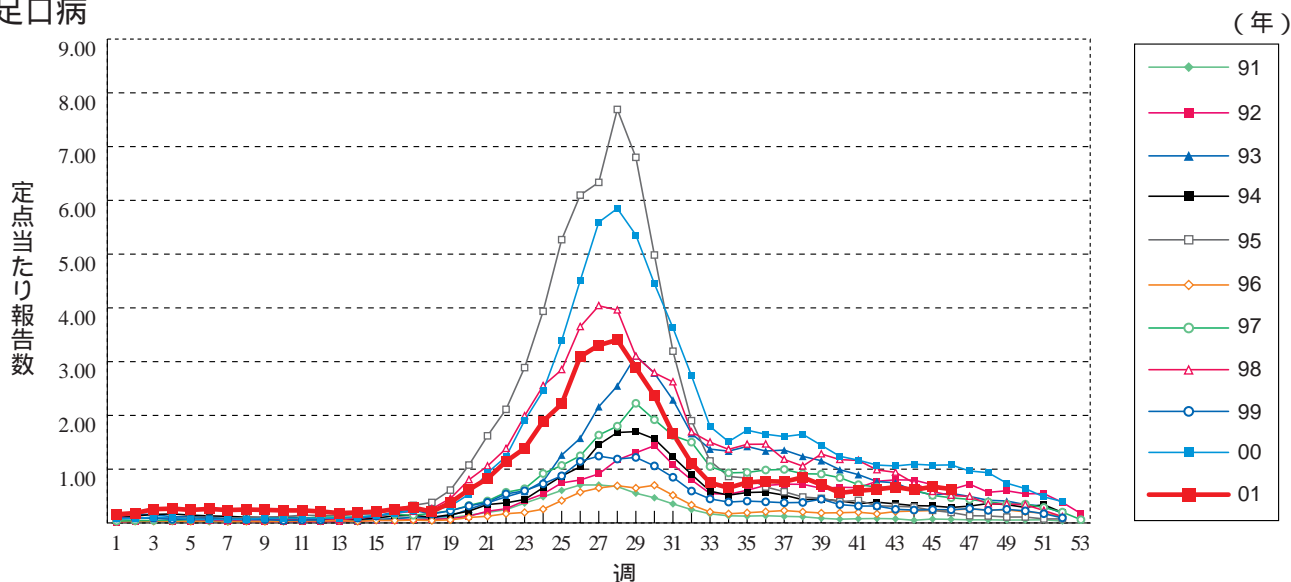
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



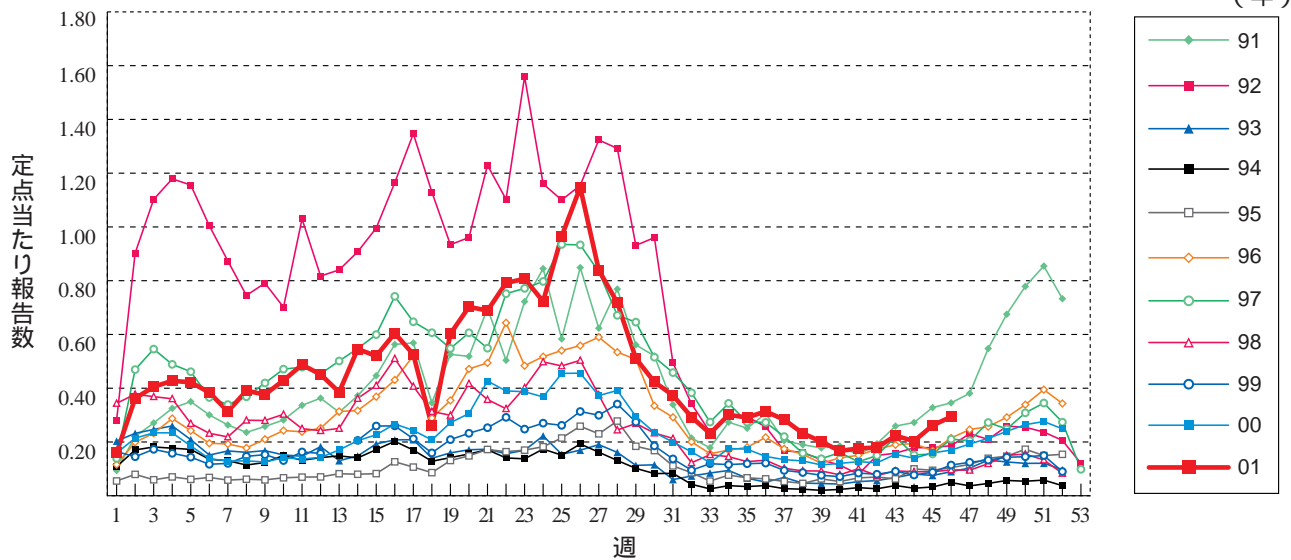
水痘



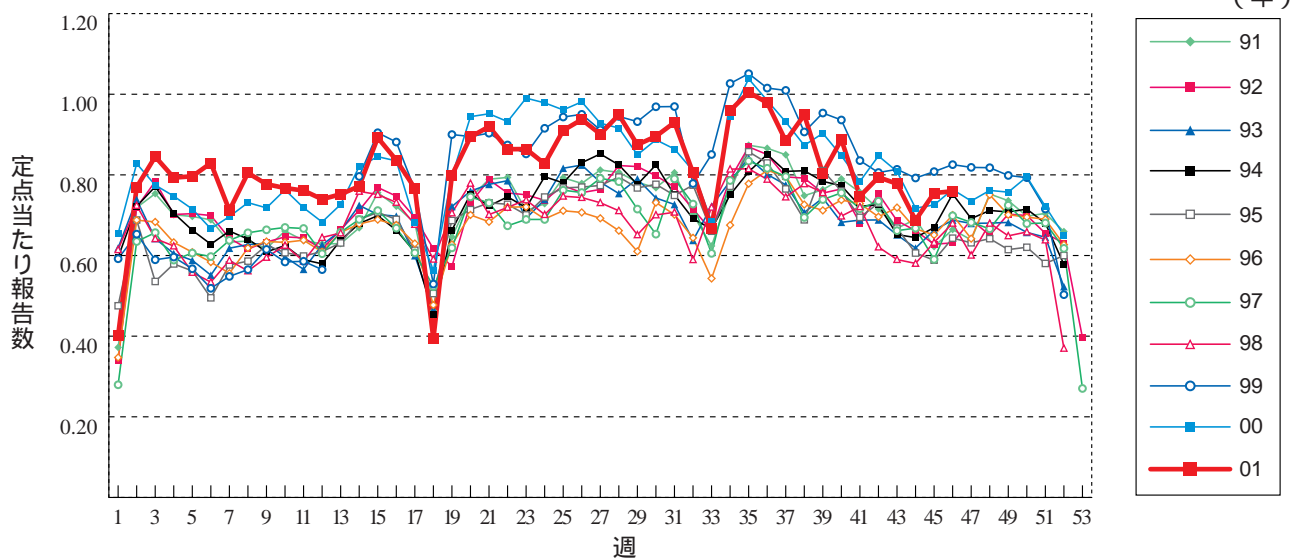
手足口病



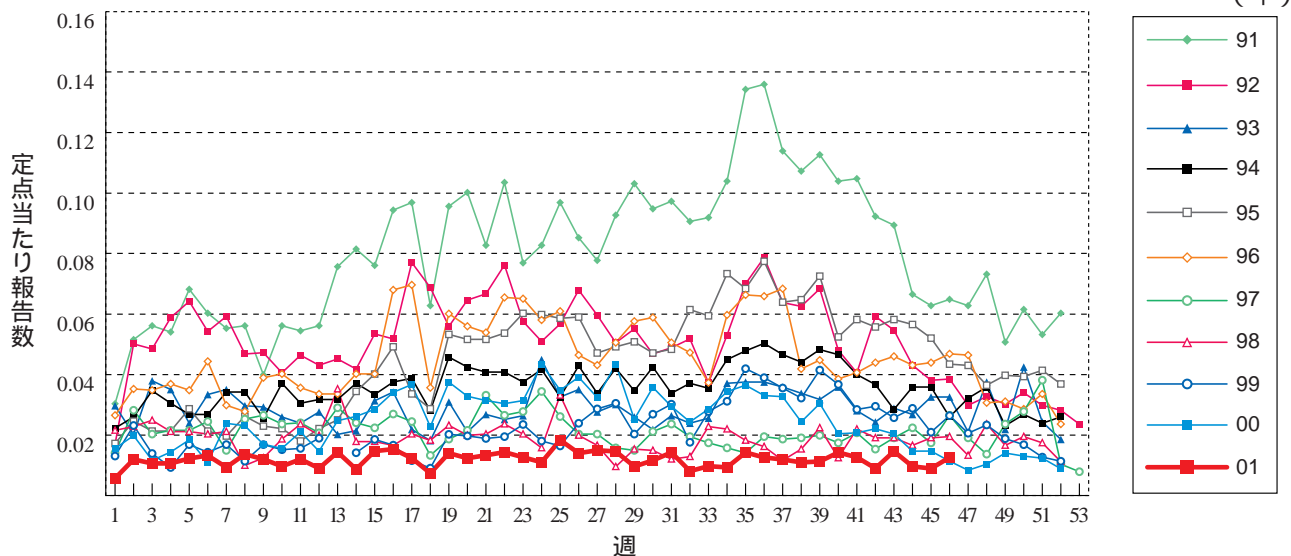
伝染性紅斑



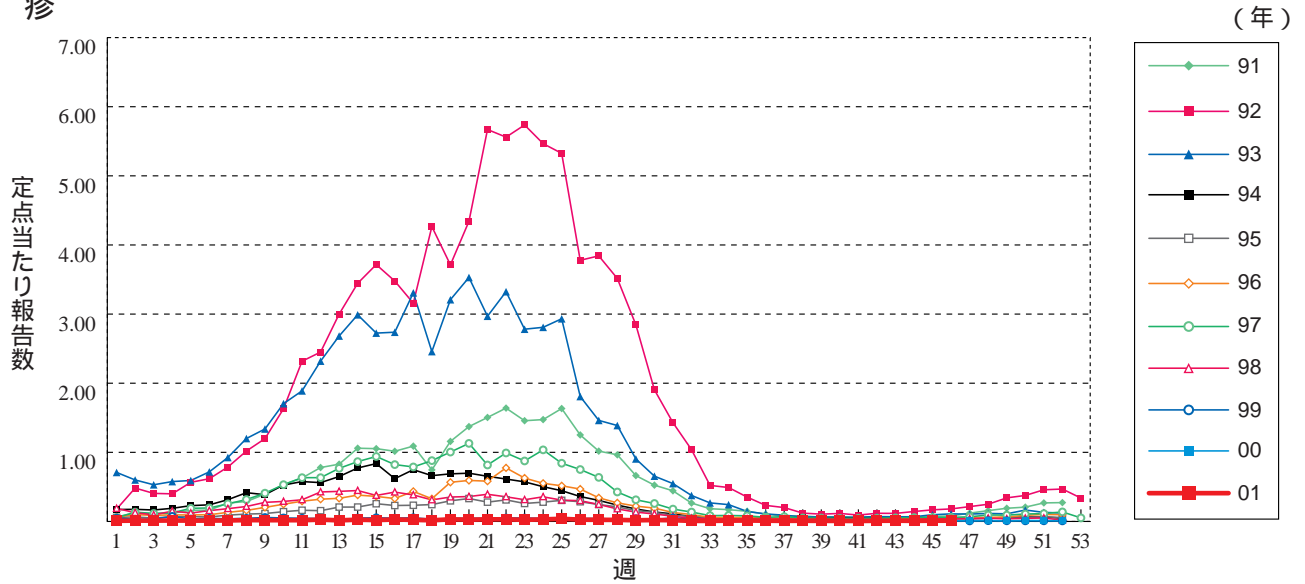
突発性発疹



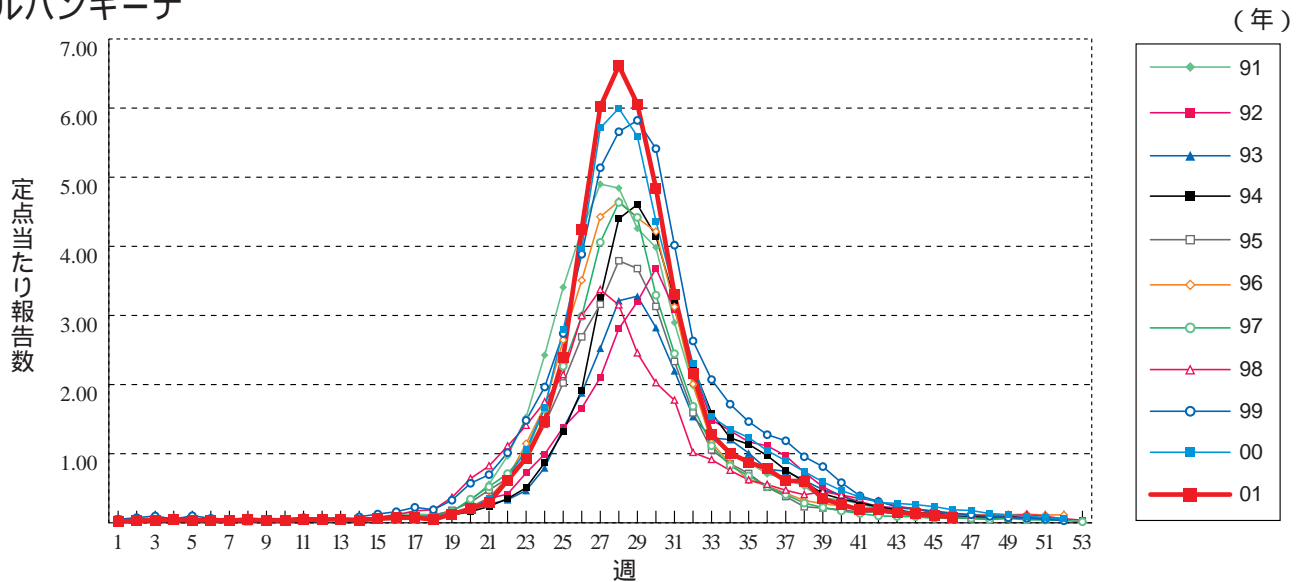
百日咳



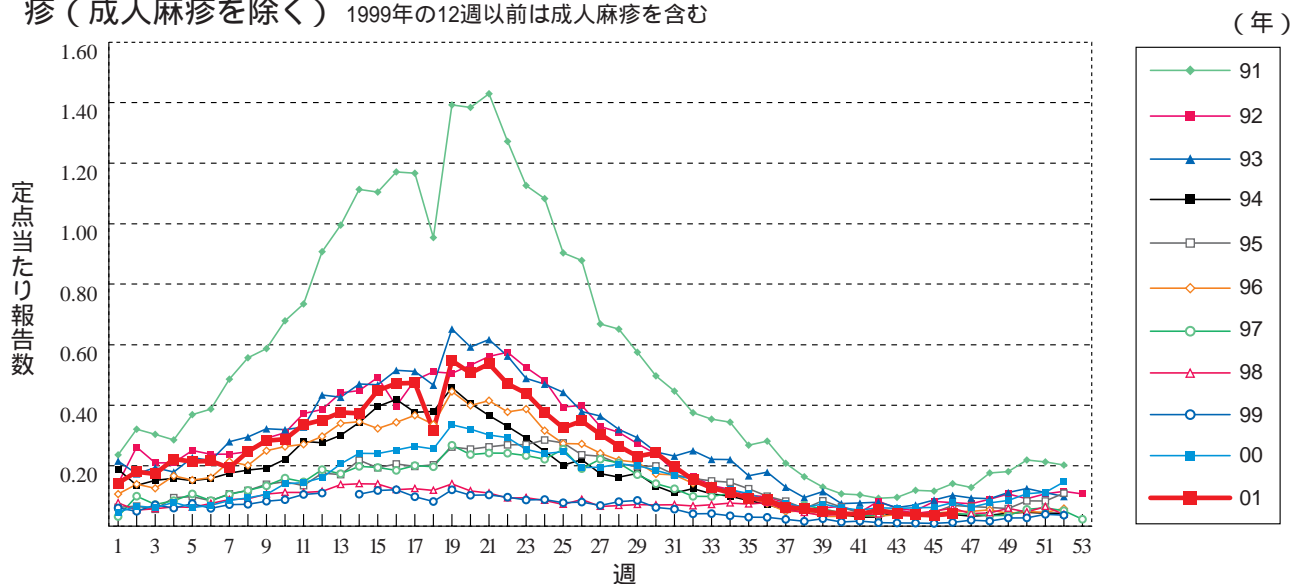
風 疹



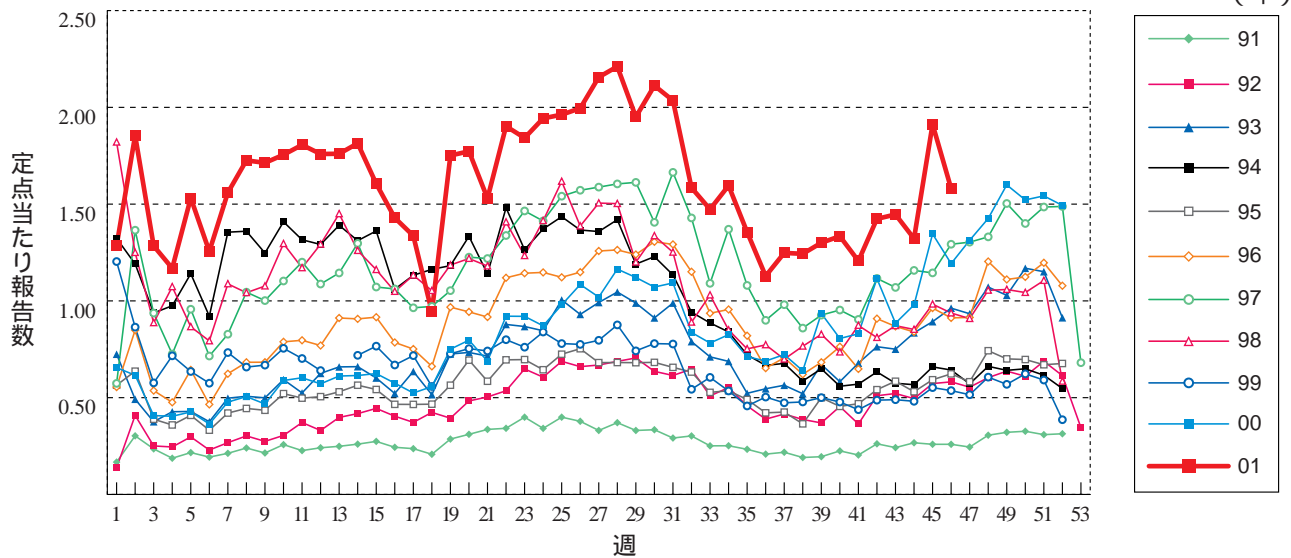
ヘルパンギーナ



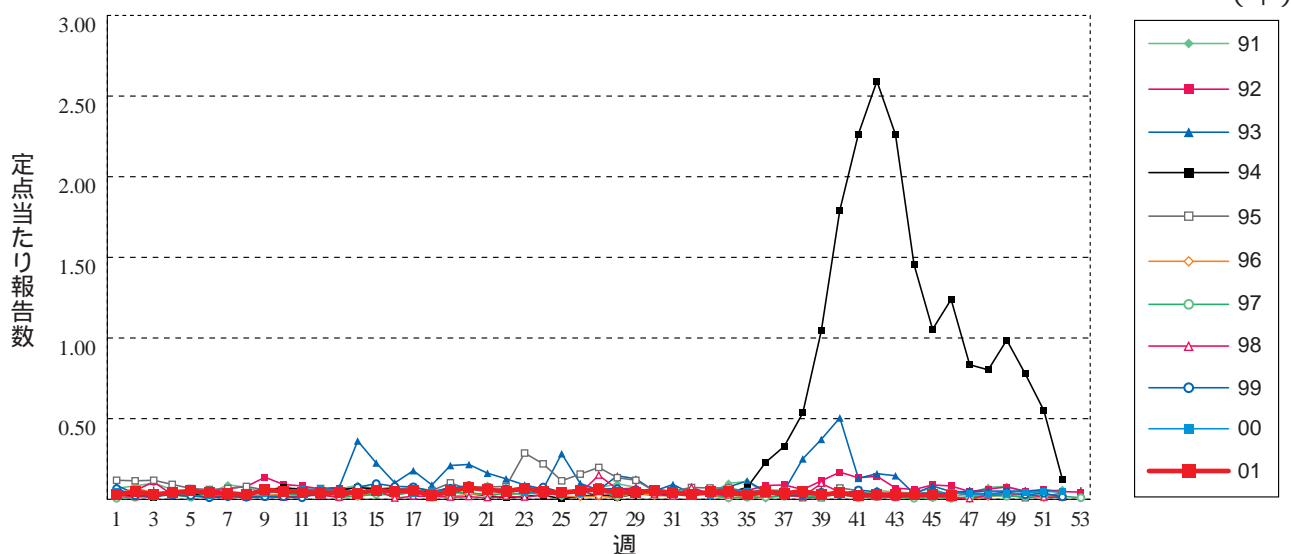
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



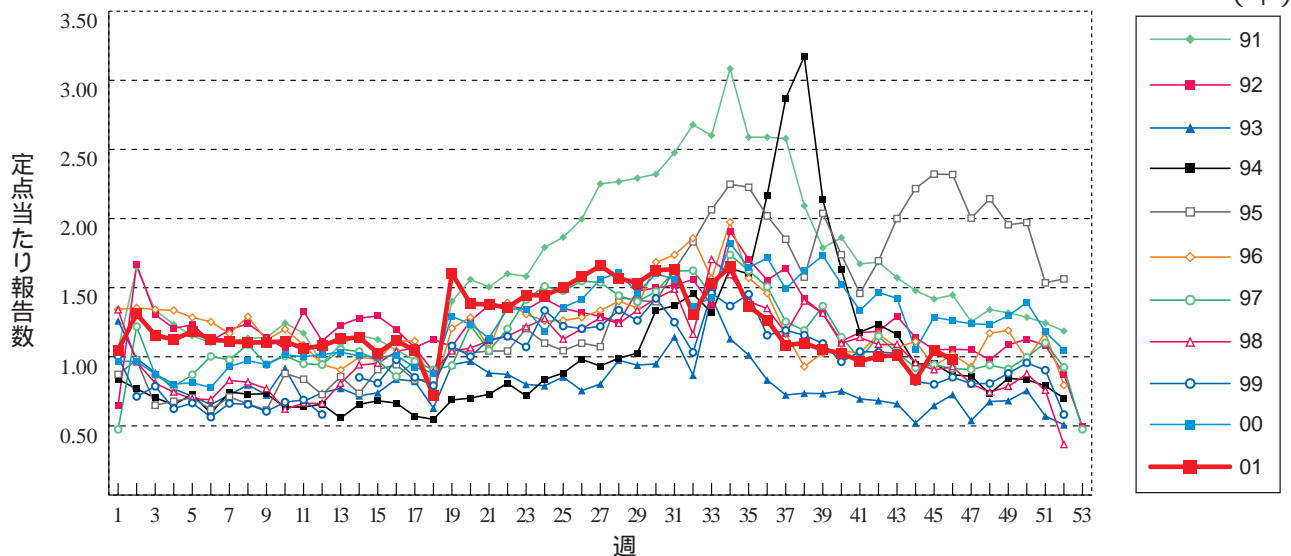
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

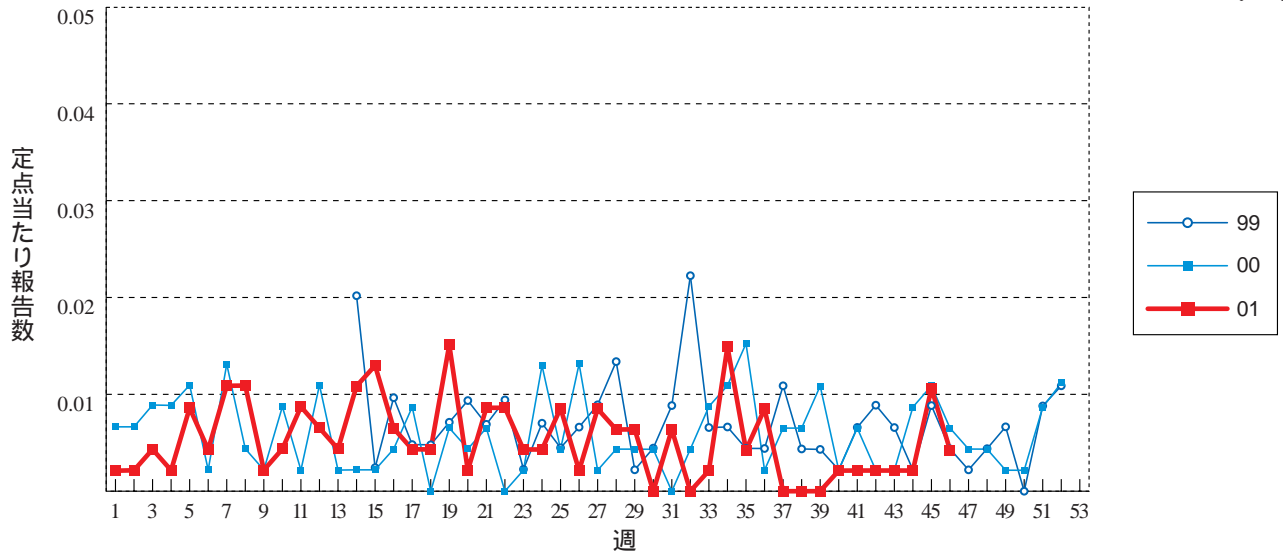


流行性角結膜炎



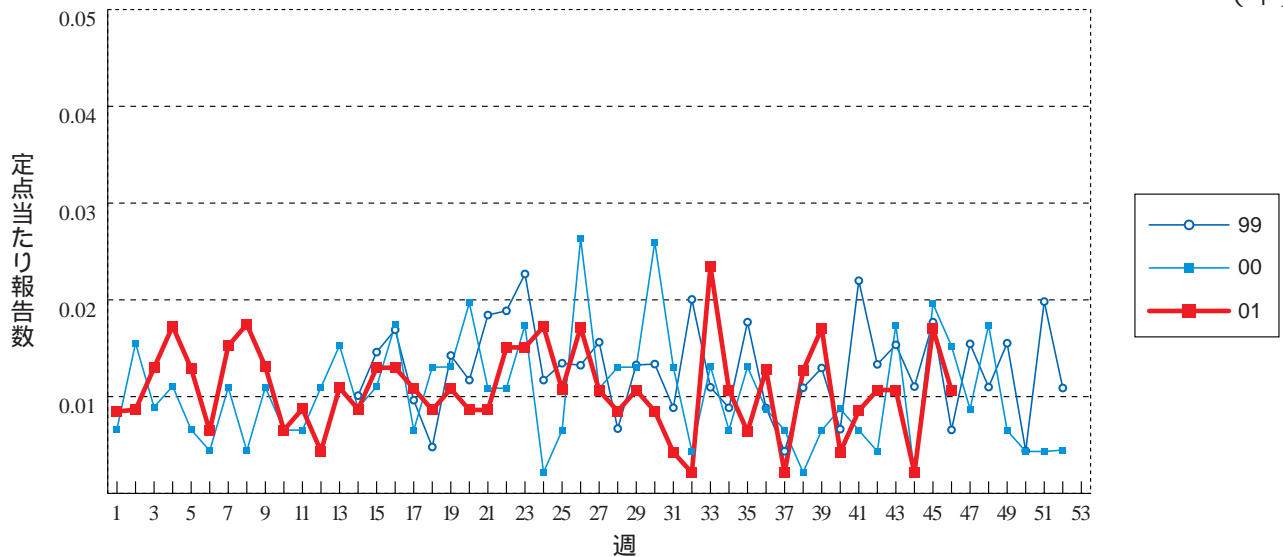
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



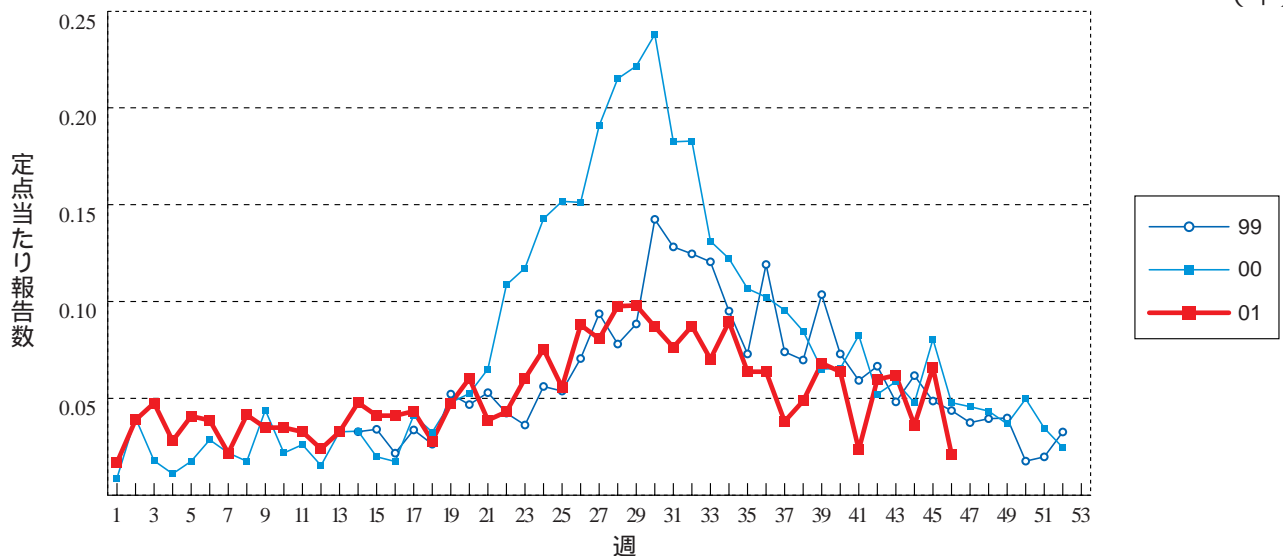
細菌性髄膜炎

(年)



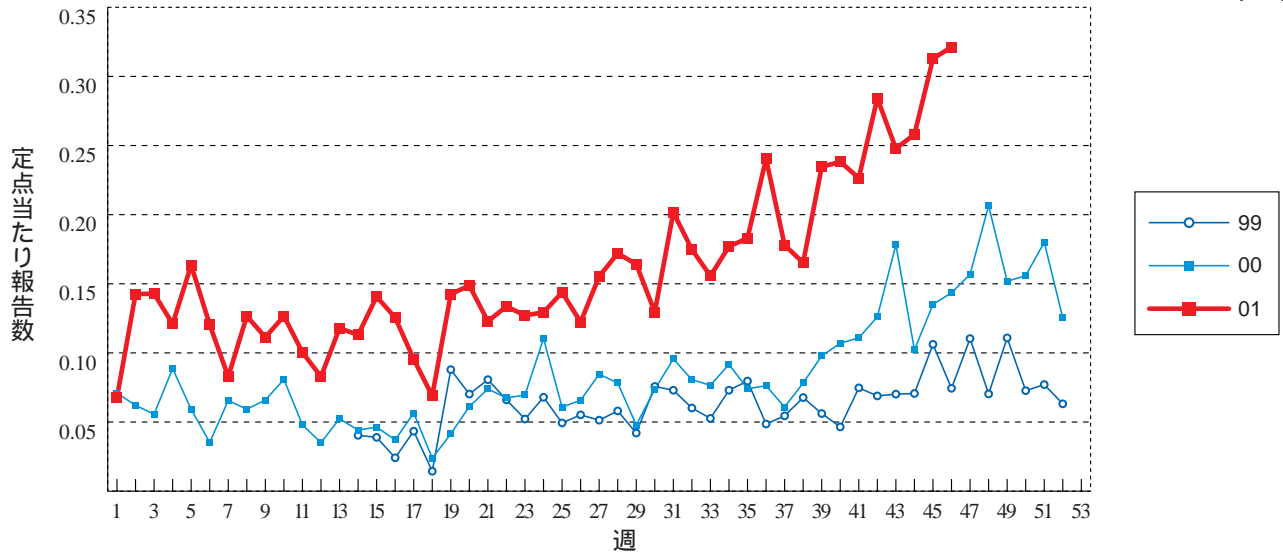
無菌性髄膜炎

(年)



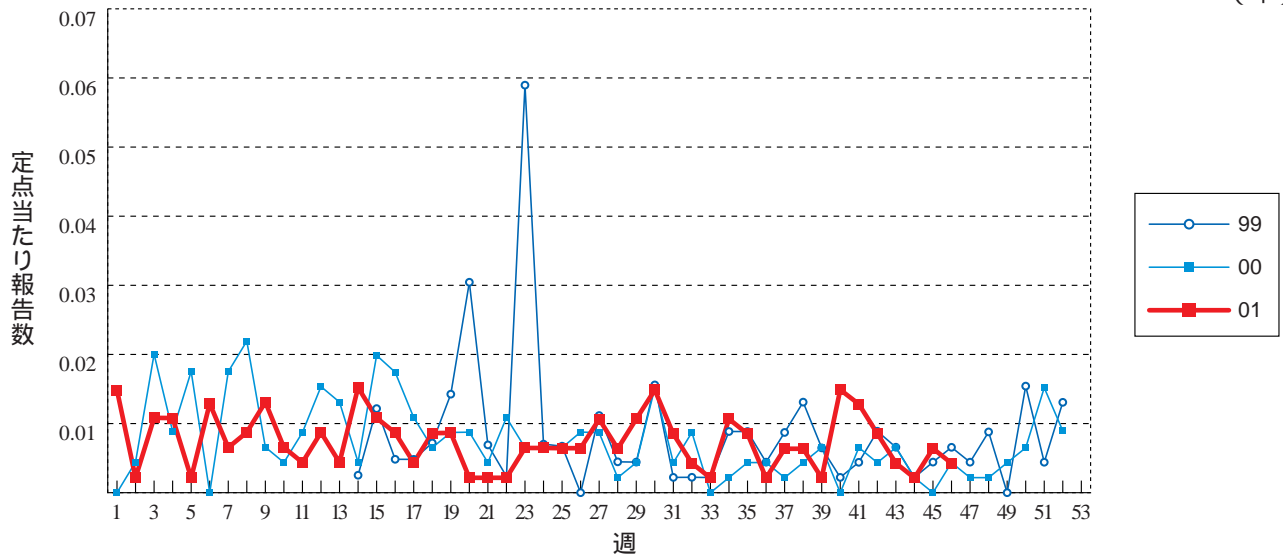
マイコプラズマ肺炎

(年)



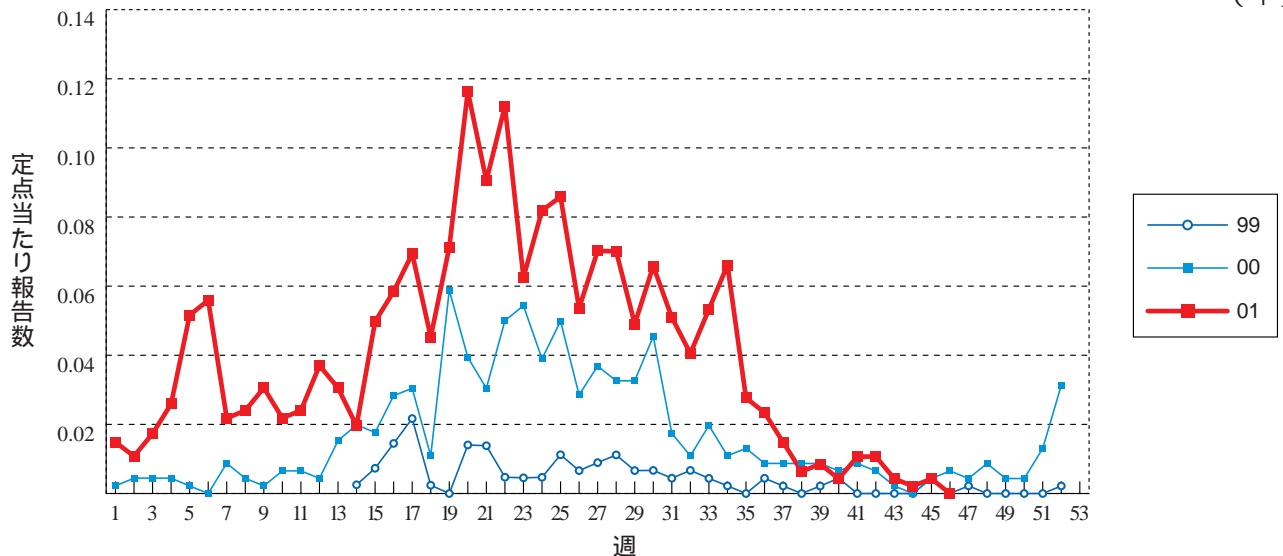
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





46週のデータ

注)表中の報告数は11月26日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年46週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	45	6	564	1	60	-	19	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	19	-	3	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	2	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	2	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	2	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	24	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	35	-	4	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	3	114	-	17	-	14	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	39	-	3	-	3	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	1	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	1	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	14	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	10	-	1	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	34	-	5	-	1	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	8	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	48	-	7	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	28	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	6	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	2	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	1	2	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	23	-	1	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	5	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年46週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	27	4151	5	360	-	11	-	-	-	29	-	-	7	817
北海道	-	-	-	-	3	153	-	6	-	9	-	-	-	-	-	-	-	10
青森県	-	-	-	-	1	45	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	-	78	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
宮城県	-	-	-	-	1	46	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	27
秋田県	-	-	-	-	2	61	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
山形県	-	-	-	-	1	59	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
福島県	-	-	-	-	-	51	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
茨城県	-	-	-	-	-	42	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
栃木県	-	-	-	-	-	24	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
群馬県	-	-	-	-	-	86	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22
埼玉県	-	-	-	-	1	213	-	14	-	-	-	-	-	1	-	-	2	17
千葉県	-	-	-	-	-	362	-	18	-	-	-	-	-	1	-	-	-	11
東京都	-	-	-	-	1	303	-	99	-	-	-	-	-	7	-	-	1	132
神奈川県	-	-	-	-	-	263	2	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52
新潟県	-	-	-	-	-	32	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
富山県	-	-	-	-	-	88	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
石川県	-	-	-	-	-	63	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5
福井県	-	-	-	-	-	60	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山梨県	-	-	-	-	-	15	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
長野県	-	-	-	-	-	59	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	2	15
岐阜県	-	-	-	-	-	22	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	51
静岡県	-	-	-	-	1	55	-	5	-	-	-	-	-	4	-	-	-	10
愛知県	-	-	-	-	1	169	-	14	-	-	-	-	-	5	-	-	-	18
三重県	-	-	-	-	1	80	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	43	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	-	93	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
大阪府	-	-	-	-	4	340	-	55	-	1	-	-	-	4	-	-	1	86
兵庫県	-	-	-	-	2	262	1	17	-	-	-	-	-	-	-	-	1	77
奈良県	-	-	-	-	-	57	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
和歌山県	-	-	-	-	-	15	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
鳥取県	-	-	-	-	-	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
島根県	-	-	-	-	-	94	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	1	73	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30
広島県	-	-	-	-	-	83	1	5	-	-	-	-	-	1	-	-	-	27
山口県	-	-	-	-	1	47	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
徳島県	-	-	-	-	-	13	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
香川県	-	-	-	-	-	17	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
愛媛県	-	-	-	-	-	50	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
高知県	-	-	-	-	-	18	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6
福岡県	-	-	-	-	1	139	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	49
佐賀県	-	-	-	-	1	87	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長崎県	-	-	-	-	2	79	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
熊本県	-	-	-	-	-	39	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
大分県	-	-	-	-	-	38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
宮崎県	-	-	-	-	-	37	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
鹿児島県	-	-	-	-	1	47	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
沖縄県	-	-	-	-	1	28	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成13年46週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	1	27	-	-	-	7	4	111	1	41	8	814	-	1	-	122	-	-
北海道	-	2	-	-	-	-	-	4	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	4	-	-	-	2	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	2	-	9	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	23	-	-	-	2	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	3	-	-	-	-	-	1	-	2	1	29	-	-	-	2	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	5	1	4	-	57	-	-	-	2	-	-
東京都	-	7	-	-	-	5	-	8	-	5	5	325	-	-	-	54	-	-
神奈川県	-	1	-	-	-	2	1	5	-	1	-	73	-	-	-	11	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-
長野県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	2	-	17	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	5	-	-	-	-	1	3	-	1	-	16	-	-	-	2	-	-
愛知県	1	2	-	-	-	-	-	6	-	3	-	38	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	10	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-
京都府	-	1	-	-	-	-	-	2	-	1	-	8	-	-	-	14	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	9	-	1	1	77	-	-	-	15	-	-
兵庫県	-	2	-	-	-	-	1	12	-	3	-	18	-	-	-	3	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	5	-	-	-	1	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	5	-	-	-	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	5	-	-	-	1	-	-
高知県	-	1	-	-	-	-	-	4	-	1	-	2	-	-	-	2	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	2	-	9	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	3	-	-	-	2	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年46週

	髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風疹 症候群		炭 疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児 ボツリヌス症		梅 毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	7	-	1	-	-	13	294	-	44	1	36	-	5	-	-	3	491
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	11
青森県	-	-	-	-	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
秋田県	-	-	-	-	-	-	1	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
山形県	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	-	-	28	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	7
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
群馬県	-	-	-	-	-	-	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	8
千葉県	-	1	-	-	-	-	-	8	-	3	-	-	-	-	-	-	-	12
東京都	-	1	-	-	-	-	-	5	-	19	-	-	-	-	-	-	1	85
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	4	-	5	-	-	-	-	-	-	-	12
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	11	-	1	-	-	-	-	-	-	-	6
岐阜県	-	-	-	-	-	-	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	13	-	1	-	-	-	-	-	-	-	9
愛知県	-	2	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	15
三重県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
京都府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	102
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	4	-	-	-	-	-	21
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	8	-	-	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
広島県	-	-	-	-	-	-	4	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	5
高知県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	12	-	1	-	-	-	4
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	1	23
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	2	6	-	1	-	-	-	1	-	-	-	4
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
大分県	-	-	-	-	-	-	4	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
宮崎県	-	1	-	1	-	-	-	12	-	-	-	3	-	-	-	-	-	3
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	25	-	-	1	8	-	-	-	-	-	4
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年46週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	71	-	42	-	-	-	-	-	-	-	-	-	95	-	14	-	73
北海道	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	5	-	2
青森県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	3
秋田県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4
栃木県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
群馬県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	3
千葉県	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	3
東京都	-	3	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	39	-	3	-	14
神奈川県	-	4	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1
新潟県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
富山県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
石川県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3
岐阜県	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
静岡県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3
愛知県	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	8
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
大阪府	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	1
兵庫県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	3
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2
島根県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
広島県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1
山口県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
徳島県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1
佐賀県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
沖縄県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年46週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水 痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百 日 咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	269	0.06	189	0.06	3861	1.28	17871	5.92	4440	1.47	1900	0.63	888	0.29	2293	0.76	38	0.01
北海道	-	-	29	0.20	343	2.37	430	2.97	277	1.91	123	0.85	43	0.30	78	0.54	1	0.01
青森県	4	0.06	1	0.02	21	0.50	129	3.07	78	1.86	20	0.48	25	0.60	15	0.36	-	-
岩手県	2	0.03	-	-	33	0.89	107	2.89	107	2.89	23	0.62	8	0.22	16	0.43	-	-
宮城県	6	0.06	4	0.07	104	1.76	413	7.00	107	1.81	51	0.86	24	0.41	47	0.80	-	-
秋田県	2	0.04	2	0.06	66	1.89	214	6.11	49	1.40	18	0.51	42	1.20	19	0.54	1	0.03
山形県	5	0.10	-	-	200	6.67	135	4.50	69	2.30	38	1.27	12	0.40	28	0.93	-	-
福島県	1	0.01	3	0.06	47	0.98	220	4.58	103	2.15	57	1.19	30	0.63	50	1.04	-	-
茨城県	-	-	1	0.01	73	1.00	167	2.29	66	0.90	32	0.44	25	0.34	32	0.44	3	0.04
栃木県	2	0.03	7	0.15	76	1.65	220	4.78	69	1.50	1	0.02	21	0.46	35	0.76	2	0.04
群馬県	14	0.14	3	0.05	85	1.37	299	4.82	106	1.71	13	0.21	6	0.10	39	0.63	-	-
埼玉県	25	0.10	15	0.09	292	1.83	1144	7.15	194	1.21	46	0.29	51	0.32	144	0.90	2	0.01
千葉県	13	0.07	9	0.07	187	1.47	626	4.93	155	1.22	65	0.51	38	0.30	90	0.71	1	0.01
東京都	7	0.04	12	0.08	98	0.69	701	4.94	109	0.77	41	0.29	18	0.13	75	0.53	1	0.01
神奈川県	25	0.07	15	0.07	221	1.07	1213	5.89	221	1.07	174	0.84	50	0.24	184	0.89	-	-
新潟県	1	0.01	6	0.10	108	1.83	413	7.00	131	2.22	106	1.80	6	0.10	55	0.93	-	-
富山県	1	0.02	-	-	79	2.72	151	5.21	100	3.45	38	1.31	7	0.24	20	0.69	-	-
石川県	1	0.02	1	0.03	21	0.72	285	9.83	43	1.48	52	1.79	21	0.72	17	0.59	2	0.07
福井県	1	0.03	4	0.18	34	1.55	179	8.14	62	2.82	11	0.50	11	0.50	17	0.77	-	-
山梨県	7	0.17	-	-	22	0.88	58	2.32	43	1.72	-	-	5	0.20	8	0.32	-	-
長野県	7	0.08	10	0.19	88	1.63	495	9.17	94	1.74	88	1.63	10	0.19	40	0.74	-	-
岐阜県	1	0.01	2	0.04	43	0.91	173	3.68	67	1.43	31	0.66	21	0.45	23	0.49	-	-
静岡県	4	0.03	4	0.05	123	1.43	438	5.09	133	1.55	91	1.06	24	0.28	80	0.93	2	0.02
愛知県	25	0.13	13	0.07	211	1.16	803	4.41	238	1.31	209	1.15	45	0.25	142	0.78	5	0.03
三重県	1	0.01	-	-	29	0.64	344	7.64	60	1.33	40	0.89	37	0.82	58	1.29	-	-
滋賀県	-	-	-	-	18	0.58	71	2.29	22	0.71	17	0.55	14	0.45	14	0.45	-	-
京都府	8	0.06	1	0.01	59	0.78	418	5.50	113	1.49	107	1.41	35	0.46	58	0.76	-	-
大阪府	16	0.05	10	0.05	131	0.68	1470	7.66	232	1.21	47	0.24	34	0.18	126	0.66	1	0.01
兵庫県	4	0.02	4	0.03	85	0.66	1148	8.97	227	1.77	18	0.14	37	0.29	116	0.91	1	0.01
奈良県	3	0.05	-	-	27	0.77	285	8.14	72	2.06	16	0.46	11	0.31	19	0.54	-	-
和歌山県	2	0.04	1	0.03	39	1.26	80	2.58	74	2.39	6	0.19	3	0.10	24	0.77	1	0.03
鳥取県	2	0.07	2	0.11	53	2.79	196	10.32	44	2.32	18	0.95	2	0.11	27	1.42	-	-
島根県	2	0.05	1	0.04	8	0.35	84	3.65	38	1.65	16	0.70	1	0.04	15	0.65	-	-
岡山県	4	0.05	1	0.02	23	0.43	182	3.37	64	1.19	93	1.72	11	0.20	25	0.46	1	0.02
広島県	1	0.01	10	0.13	94	1.25	310	4.13	119	1.59	27	0.36	9	0.12	65	0.87	2	0.03
山口県	-	-	2	0.04	121	2.47	604	12.33	69	1.41	25	0.51	21	0.43	58	1.18	-	-
徳島県	1	0.03	-	-	12	0.52	113	4.91	27	1.17	14	0.61	7	0.30	17	0.74	-	-
香川県	-	-	3	0.09	7	0.22	181	5.66	46	1.44	71	2.22	17	0.53	21	0.66	-	-
愛媛県	-	-	1	0.03	48	1.23	348	8.92	38	0.97	18	0.46	24	0.62	36	0.92	-	-
高知県	-	-	1	0.03	23	0.74	69	2.23	20	0.65	5	0.16	5	0.16	12	0.39	-	-
福岡県	3	0.02	2	0.02	209	1.99	1183	11.27	181	1.72	4	0.04	29	0.28	127	1.21	9	0.09
佐賀県	1	0.03	-	-	22	0.96	126	5.48	52	2.26	1	0.04	5	0.22	33	1.43	-	-
長崎県	4	0.06	-	-	26	0.54	124	2.58	39	0.81	9	0.19	12	0.25	16	0.33	-	-
熊本県	3	0.04	2	0.04	89	1.82	681	13.90	63	1.29	8	0.16	17	0.35	44	0.90	2	0.04
大分県	8	0.14	2	0.06	42	1.17	288	8.00	65	1.81	3	0.08	7	0.19	46	1.28	-	-
宮崎県	6	0.10	1	0.03	90	2.43	359	9.70	72	1.95	2	0.05	3	0.08	47	1.27	-	-
鹿児島県	42	0.43	4	0.07	29	0.48	157	2.62	71	1.18	4	0.07	4	0.07	28	0.47	1	0.02
沖縄県	4	0.07	-	-	2	0.06	37	1.09	11	0.32	3	0.09	-	-	7	0.21	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年46週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	32	0.01	250	0.08	125	0.04	4774	1.58	15	0.02	623	0.98	2	0.00	5	0.01	10	0.02
北海道	-	-	19	0.13	42	0.29	191	1.32	-	-	36	1.24	-	-	-	-	-	-
青森県	2	0.05	-	-	10	0.24	63	1.50	1	0.09	15	1.36	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	3	0.08	-	-	42	1.14	-	-	11	0.92	-	-	-	-	-	-
宮城県	1	0.02	8	0.14	-	-	93	1.58	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	4	0.11	1	0.03	39	1.11	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	97	3.23	-	-	12	1.50	-	-	1	0.10	-	-
福島県	-	-	3	0.06	-	-	129	2.69	-	-	20	1.67	-	-	-	-	-	-
茨城県	2	0.03	1	0.01	2	0.03	161	2.21	-	-	29	1.81	-	-	-	-	-	-
栃木県	1	0.02	-	-	1	0.02	76	1.65	-	-	21	1.75	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	2	0.03	-	-	50	0.81	-	-	27	1.93	1	0.10	-	-	-	-
埼玉県	-	-	7	0.04	3	0.02	189	1.18	-	-	20	0.56	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	12	0.09	4	0.03	130	1.02	-	-	33	1.00	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	19	0.13	2	0.01	106	0.75	-	-	7	0.50	-	-	-	-	-	-
神奈川県	3	0.01	6	0.03	-	-	204	0.99	-	-	51	1.21	-	-	-	-	-	-
新潟県	1	0.02	1	0.02	-	-	143	2.42	1	0.11	7	0.78	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	3	0.10	2	0.07	140	4.83	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	2	0.07	4	0.14	-	-	180	6.21	-	-	4	0.57	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	2	0.09	-	-	18	0.82	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	2	0.08	-	-	34	1.36	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	4	0.07	1	0.02	280	5.19	2	0.20	18	1.80	-	-	-	-	2	0.18
岐阜県	-	-	2	0.04	5	0.11	91	1.94	-	-	6	0.55	-	-	-	-	-	-
静岡県	3	0.03	6	0.07	13	0.15	156	1.81	-	-	20	1.00	-	-	1	0.13	-	-
愛知県	1	0.01	7	0.04	9	0.05	228	1.25	-	-	16	0.46	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	5	0.11	-	-	50	1.11	-	-	1	0.08	-	-	1	0.11	-	-
滋賀県	-	-	2	0.06	1	0.03	30	0.97	-	-	5	0.71	-	-	-	-	1	0.14
京都府	-	-	5	0.07	-	-	86	1.13	1	0.06	4	0.22	-	-	-	-	-	-
大阪府	3	0.02	17	0.09	8	0.04	199	1.04	2	0.04	31	0.60	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	4	0.03	-	-	101	0.79	-	-	27	0.77	-	-	1	0.07	-	-
奈良県	-	-	4	0.11	1	0.03	60	1.71	-	-	9	1.00	-	-	-	-	1	0.17
和歌山県	-	-	2	0.06	1	0.03	55	1.77	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	2	0.11	-	-	10	0.53	-	-	-	-	-	-	1	0.20	-	-
島根県	-	-	1	0.04	-	-	15	0.65	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.13
岡山県	2	0.04	1	0.02	1	0.02	92	1.70	-	-	15	1.25	-	-	-	-	-	-
広島県	1	0.01	6	0.08	1	0.01	93	1.24	1	0.05	20	1.00	1	0.05	-	-	1	0.05
山口県	-	-	20	0.41	4	0.08	45	0.92	1	0.11	16	1.78	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	3	0.13	-	-	53	2.30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	1	0.03	-	-	-	-	45	1.41	-	-	6	2.00	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	3	0.08	-	-	137	3.51	-	-	11	1.57	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	2	0.06	-	-	14	0.45	-	-	5	1.67	-	-	-	-	-	-
福岡県	6	0.06	17	0.16	5	0.05	214	2.04	1	0.04	42	1.75	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	8	0.35	1	0.04	67	2.91	1	0.25	1	0.25	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	3	0.06	5	0.10	37	0.77	4	0.40	16	1.60	-	-	-	-	-	-
熊本県	1	0.02	9	0.18	-	-	57	1.16	-	-	16	1.78	-	-	-	-	3	0.20
大分県	-	-	10	0.28	-	-	47	1.31	-	-	1	0.20	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	4	0.11	-	-	113	3.05	-	-	21	5.25	-	-	-	-	1	0.14
鹿児島県	1	0.02	6	0.10	-	-	143	2.38	-	-	12	2.00	-	-	-	-	-	-
沖縄県	1	0.03	1	0.03	2	0.06	171	5.03	-	-	6	0.60	-	-	-	-	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成13年46週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	151	0.32	2	0.00	-	-
北海道	1	0.04	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	3	0.15	-	-	-	-
宮城県	18	1.50	-	-	-	-
秋田県	5	0.71	-	-	-	-
山形県	8	0.80	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	2	0.29	-	-	-	-
群馬県	1	0.10	-	-	-	-
埼玉県	1	0.11	1	0.11	-	-
千葉県	7	0.54	-	-	-	-
東京都	3	0.12	-	-	-	-
神奈川県	1	0.09	-	-	-	-
新潟県	8	0.62	-	-	-	-
富山県	2	0.40	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-
福井県	1	0.17	-	-	-	-
山梨県	8	0.80	-	-	-	-
長野県	-	-	1	0.09	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.13	-	-	-	-
愛知県	5	0.38	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-
滋賀県	7	1.00	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	7	0.58	-	-	-	-
兵庫県	2	0.14	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	1	0.20	-	-	-	-
島根県	8	1.00	-	-	-	-
岡山県	4	0.80	-	-	-	-
広島県	9	0.43	-	-	-	-
山口県	5	0.56	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	1	0.20	-	-	-	-
愛媛県	2	0.33	-	-	-	-
高知県	14	1.75	-	-	-	-
福岡県	4	0.27	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	6	0.40	-	-	-	-
大分県	1	0.10	-	-	-	-
宮崎県	2	0.29	-	-	-	-
鹿児島県	3	0.25	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-

感染症週報 第3巻、第46号 平成13年11月30日発行
 発行：国立感染症研究所
 厚生労働省健康局結核感染症課
 厚生労働省大臣官房統計情報部
 事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
 〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
 T E L : 03-5285-1111
 F A X : 03-5285-1129
 U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
 < 国立感染症研究所 感染症情報センター >
<http://www.mhlw.go.jp/>
 < 厚生労働省 >
<http://www.forth.go.jp/>
 < 旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所) >

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。